



# 光 さんさん

吉原小学校だより

創立記念特集号

平成28年9月7日発行

校長 池田 直哉 在籍数50名

夢をもち 共に学び きたえる

心豊かな児童の育成

## 吉原小学校の校歌のルーツを探る！

9月8日で創立137周年を迎える吉原小学校ですが、平成30年3月末に閉校となり、阿見小学校への統合が進められていることは周知のとおりです。そんな中、吉原小を懐かしんでいただき、いつまでも心に留めておいていただきたく、「さようなら吉原小学校 思い出がいっぱいミュージアム」の充実にも努めております。今号では、昭和45年に制定された校歌にまつわるエピソードをいくつかご紹介いたします。校歌は、学校周辺の自然や校風、教育理念を示したものです。これを歌い続けた多くの児童が、帰属感や連帯感を高め、将来への夢や希望を育み強く胸に抱いて卒業していきました。今一度口ずさんでみてはいかがでしょうか。

### 吉原小学校校歌

金澤直人作詞  
柳橋久作曲

四つの若葉のかんばしく  
生いたつ光さんさんと  
心とからだすこやかに  
明るい空のかけはえて  
輝きまさをわがひとみ  
ひとみつぶらにまゆあげて  
はるばる望むわが道の  
ゆくてに青い筑波山  
理想も高く学ぶ子の  
努力にひらく知恵の花  
花さくところ吉原の  
学びの窓は誠実の  
心の花もかおる窓  
人の世に負うわがつとめ  
つくしていこういつの日も

「校歌額」 昭和46年度卒業生寄贈（校長室）

創立90周年記念事業に向けての準備が進められ、茨城大学教授の金澤直人氏の作詞、柳橋久氏の作曲により昭和45年に作られました。お二人による校歌づくりは県内にも多数あるようですが、ここで、金澤直人氏と阿見町の関係や校歌にある「花さくところ」について触れてみます。

かつて阿見町は「教育の阿見」と呼ばれていました。終戦時に、水戸にあった茨城師範学校（現茨城大学教育学部）が焼失し、阿見の旧軍部施設（元海軍気象学校跡）に移転することとなり、あわせて阿見小学校が代用附属小学校として文部省により委嘱されたことに始まります。附属小学校は教育実習生と在籍する児童に最善の教育を施すという原則で、阿見小学校には県内の学校から有能な教師が数多く配置されました。国語科では、金澤直人氏や山口正氏（統合阿見中以前の阿見中の校歌を作詞）などの師範学校の教官が「新学習指導理論」について講義をされました。戦後県内で新教育研究の先駆的役割を果たすこととなり、以後「教育の阿見」と呼ばれるようになったそうです。そんないきさつも有り、金澤先生に校歌を依頼したものと思われま。

校歌の歌詞で、気になるのが一番の「四つの若葉のかんばしく…」の「四つ」です。何をあらわしているものなのか。「吉原、福田、大砂、新山」の4地域を指しているのかなど予想してみますが、いまだに不明です。もう一つは、三番の「花さくところ吉原の…」です。これについては、核心にせまることができました。それは、大規模な校庭拡張工事が終了した昭和40年頃から力を入れ始めた学校の花壇にあります。苗床や温室を整備し、植物園にでもいるような豊富な種類の草花やバラの栽培、鷹巣先生の指導による白い山羊のモニュメント、そして芝生の緑とのコントラストが美しさを引きださせていました。毎週火曜日は、除草作業に割り当てられ、児童の愛校心や奉仕の精神が培われていきました。校歌制定前年、酒井校長在職時の昭和44年には花壇コンクール優秀賞を受賞しています。そんな学校の様子から、この歌詞が生まれたものと思われま。

現在の花壇ですが、昭和47年に石岡一高櫻井徳郎教諭設計によるモダンな形に作りかえられました。PTA 奉仕や植木の提供、卒業記念のサツキ、記念碑の寄贈などがあり、今でも色あせることのないすばらしい花壇となっています。岡野福次郎校長在職時の平成元年や村木聖一校長在職時の平成25年には、花壇コンクールにおいて知事賞を受賞しています。これら大先輩の志を引継ぎ、地域の人々にも楽しみしてもらえよう花壇づくりを心掛けています。